

令和7年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月7日実施)	総合評価（3月 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	<p>① 基礎学力の定着と大学進学を視野に入れた授業を実践する。</p> <p>② 主体的、自主的に学習に取り組む態度の醸成、伸長をめざした授業改善を図る。</p>	<p>① 電子黒板の活用により視覚的な効果をうまく使い効果的な授業を実践する。</p> <p>② 学習コンテンツの活用により、1年から3年まで自律的学習を図る。</p>	<p>① 電子黒板の活用実践事例の報告・研修会をする。</p> <p>② 活用法の研修会の実施、宿題の配信、面接動画、小論文対策動画をを行い授業改善につなげる。</p>	<p>① 生徒面談からの要望、授業評価アンケートの内容。</p> <p>② 生徒が学習コンテンツをしっかりと利用できているか。</p>	<p>① 電子黒板の実践事例を踏まえた研修会を実施した。また、アンケートでも好評であった。</p> <p>② 新着任の先生方を中心にその活用方法についてレクチャーを行った。また、小論文対策や面接指導等の総合型選抜試験対策の動画の紹介により利用頻度が上がった。</p>	<p>① 電子黒板を利用した双方向の授業展開に努める。</p> <p>② 3年生の利用頻度の向上が見られたが、恒常的な利用率がまだ低いので高める必要がある。</p>	<p>・国数英の課題等に活用している民間の学習コンテンツを、他の科目でも積極的に活用されるとよい。</p> <p>・1人1台端末の活用と学習コンテンツによる動画配信等のさらなる工夫について推進、研究していただきたい。</p>	<p>・民間の学習コンテンツの効果的な活用をさらに進める必要がある。</p> <p>・次年度導入するロイノートの授業における活用についても積極的な推進が必要である。</p>	<p>・1人1台端末、電子黒板等の活用を含め研修や情報共有の機会を多く設定する必要がある</p> <p>・授業におけるICTの活用では、それが目的とならないように、工夫しながら授業改善に取り組む。</p>
2	(幼児・児童・)生徒指導・支援	<p>① SCやSSWと連携した能動的・組織的な生徒支援体制及び教育相談体制を確立するとともに、教員の意識改革を図り多様性を認識し認め合う雰囲気醸成する。</p> <p>② 部活動の更なる活性化を図り、挨拶や素直な心を基盤とした人間関係形成力や自己表現力を育成する。</p>	<p>① 自身が抱える悩みや課題についてうまく表現できない生徒に対するアプローチの方法について検討し実践する。</p> <p>② 人間関係形成力や豊かな心を育むため、更なる部活動の活性化を図る。</p>	<p>① サポートドックの実施時期やプッシュ型面談の対象をSCやSSWと連携しながら精査し、有効性を高める。</p> <p>② 部活動を取りまく制度を整備し、部活動の加入率(70%)を維持する。</p>	<p>① 悩みや課題を抱える生徒を一人でも多く抽出し、SCやSSWとの面談等、必要となる対応を取ることができたか。</p> <p>② 部活動に主体的に取り組める環境を整え、加入率を維持できたか。</p>	<p>① サポートドックの結果により見出した生徒が抱える課題を精査し、教育相談コーディネーターを中心にSCやSSWと連携しながら対応策を立案し実施した。</p> <p>② 部活動の加入率は約75%であり目標を達成することができた。全体として部活動の活性化を図ることができた。</p>	<p>① 潜在的に課題を抱える生徒へのアプローチをより精度の高いものとする必要がある。</p> <p>② 次年度も加入率は現状を維持しつつ、顧問調整や環境整備などに努める。</p>	<p>・サポートドックが適時、効果的に実施されていると感じる。</p> <p>・教員からの声かけが生徒への何よりの助けとなる。これからも積極的にお願いしたい。もっと助けを求めてよいと感じさせてほしい。</p> <p>・SNSによる暴力動画等、生徒はその危険性を十分に自覚していないように感じる。保護者へも情報を発信してほしい。</p> <p>・部活動に真剣に取り組んでいる生徒は、入試にも社会に出てからも強みになる。今後も部活動の加入率をあげてほしい。</p>	<p>・サポートドックの効果的な実施や、SC・SSWのプッシュ型面談により適切に生徒対応ができた。しかし潜在的に課題を抱えている生徒の対応については今後も工夫が必要である。</p> <p>・多くの部活動で、優秀な大会実績を残すことができ、学校全体の活性化に成果を上げた。加入率の向上には、活動のメリットを周知することが肝要である。</p>	<p>・サポートドックの質問内容を精査し、面談の機会を増やす事を検討する。また、SC・SSWや外部機関との連携を強化するため広く相談窓口を設ける。</p> <p>・HP等を活用して部活動の実績を、広く広報する。新入生の加入率増加を工夫する。また、働き方改革の観点から、顧問の負担軽減につなげる工夫も検討する。</p>
3	進路指導・支援	<p>① 生徒一人ひとりが自己理解を深め、将来を具体的に考える姿勢を育成する。</p>	<p>① 自己理解を深化させ、自己の将来に向けて考え、進路目標に向けて、多様な探究活動等に主体的に取り組む姿勢を育てる。</p>	<p>① 「総合的な探究の時間」の活用等による生徒の主体的な活動の充実に必要な情報を収集し、職員相互での共有を図り、生徒一人ひとりの将来の在り方を見通して、組織的な進路</p>	<p>① 新学習指導要領をふまえて情報収集し、共通理解を深め、スキルを向上させることにより、探究活動において自己効力感、集学的効力感をもてるよう成功体験につながる場、仲間と</p>	<p>① 生徒の主体的な進路活動の充実に向けて、上級学校の入試情報の収集に努め、職員の共通理解のもと、「総合的な探究の時間」や全体説明会、個別支援等を通じて、適切な情報発信を行い、効果的な支援を行った。また、成功体験や仲間</p>	<p>① 今後の入試制度の見直し、出願基準等の変更について、次年度を見通し、入試情報を正確に職員で情報共有することが課題であり、引き続き、引き続き、より一層の共通理解に努め、変更に伴う対応を適切に行う。</p>	<p>・総合型選抜による定員を増加する大学が増えている。日頃から、探究的な学びとそれを発進する力の育成が必要だと感じている。大学も協力できる部分は協力したい。</p>	<p>・「総合的な探究の時間」や説明会等を通じて、生徒の進路活動に最新の情報提供を行い、効果的な支援を行う。入試情報の詳細を正確に職員で共有し発信することが課題である。</p>	<p>・多様化している入試制度を踏まえ、情報共有の時間確保や発信の時期を早める等の対策を検討し、より一層の共通理解と生徒支援に努める。</p>

視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月7日実施)	総合評価(3月 日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
	② 主体的に進路目標を設定し、達成に向けた取組みの実践へと繋がる探究活動の充実を図る。	② 生徒一人ひとりの進路目標をふまえて、希望する進路実現や社会参画を見通した探究活動が向上心を持って実践できる環境作りに努める。	② 進路実現や将来設計につながるよう、探究活動、分野別進路ガイダンス等の企画や面接指導などの早期の支援体制をよりに充実させる。	② 探究活動に取り組み、生徒が自己の将来設計を実践する中で、自己肯定感を高め、自己理解を深め、仲間と協働する姿勢を持つことができたか。	② 各学年の探究活動において職業人講話、上級学校の分野別ガイダンス、キャンパス訪問等を実施し、生徒一人ひとりの主体的な進路実現に向けた環境作りを行い、自己理解・他者理解につなげるキャリア支援の充実に努めた。	② 3年間を見通した探究活動や自己の将来設計をふまえて、継続的で持続可能な活動を実践し、生徒が自己理解を深め、仲間と協働する姿勢を持ち、自己肯定感をもてるよう取り組みを見直し、次年度の企画の立案に努めた。	・地域の大学や企業等と連携して学習活動を行うことは、自己理解を深め、自己肯定感を向上させることに大変効果的である。 地域連携と探究的な学習をより充実させると良い。	・各学年の探究活動を活用して上級学校ガイダンス、キャンパス訪問等を実施し、生徒の進路実現に向けた支援を充実させた。生徒の将来設計を見通し、個に応じた多様な探究活動の計画立案が課題である。	・総合型選抜の受験に対応できるよう、生徒が自己肯定感、自己効力感、集合的効力感をもてるよう成功体験につながる機会を増やし、仲間と挑戦を共有できるような探究的学習の企画立案に努める。
4 地域等との協働	① 地域社会との交流や連携・協働を通して、地域とのつながり・絆を強化し、地域の一員としての自覚を持つ「社会性豊かな生徒」の育成と「地域とともにある学校づくり」を推進する。	① 地域社会との交流や連携・協働を通して、地域の一員として、つながり・絆を大切に思う心を育成する。 ① 一層の情報発信や地域連携の充実を図る。	① 地域との連携事業への積極的な参加を促進する。 ① HP等を活用し、効果的な学校の広報、情報発信を行う。	① 荇田高校の地域連携事業が地域から愛され、高い評価を受けることができたか。 ① 荇田高校の良さを、地域へ発信することができたか。	① 荇田坂清掃及び、荇田南小・中学校、荇田南連合自治会との連携事業を継続して行った。 生徒から希望者を募り、近隣の保育園で保育士ボランティアを行った。 ② ホームページの更新を定期的に行った。学校説明会、学校見学を行った。生徒の視点を知ってもらうため、学校見学の際には、生徒が作成した荇田高校マップを配布した。	① 周囲の状況が変化していく中で、連携事業を続けていくために、相互の連絡をより連絡を密にとる必要がある。地域に貢献できる活動には、より積極的に参加する。 ② 部活動の状況などをより早く、ホームページで発信できるように、校内での連携をより強くする。参加者が求めている情報を精査し、効率よく分かりやすい説明を心掛ける。	・地域の清掃活動や夏祭り等に積極的に参加してもらうことで、地域の活性化に役立っている。ボランティア活動を充実させ、今後も継続してもらいたい。 ・地域連携を密にするための情報交換や連絡方法には工夫が必要である。 ・様々な活動を積極的にHP等で発信することで、学校の魅力が伝えられると良い。	・近隣小中学校や地域との連携事業では、大変好評であるという意見をいただいた。十分な成果を上げたと考えている。 ・HP等の迅速な更新や学校説明会、広報誌等を活用した広報活動を充実させ、より一層学校の魅力発信を工夫する必要がある。	・地域の連携事業のスケジュールや開催方法についての情報共有を密にし、連絡方法を工夫する等、生徒が参加しやすい環境を充実させる。連携のより一層の強化を図る。 ・地域連携やボランティア活動に重点をおいた広報活動の在り方を検討する。PR活動の充実を図る。
5 学校管理 学校運営	① 生徒と向き合う時間を確保するために、組織的な学校運営と校務の効率化を図る。 ② 職員が学校運営上の課題を理解・共有するとともに、リスクマネジメントの意識を徹底することにより、安全・安心な学校づくりを推進する。	① 若手職員とのコミュニケーション、ICT活用による業務効率化等における課題の改善をさらに推進する。 ② 学校運営上の課題の共通認識、研修・掲示物による可視化、Teams活用等の工夫により、職員のリスクマネジメント意識の維持・向上を推進する。	① 若手職員とのコミュニケーション、ICT活用による業務効率化等における課題の改善をさらに推進する。 ② 学校運営上の課題の共通認識、研修・掲示物による可視化、Teams活用等の工夫により、職員のリスクマネジメント意識の維持・向上を進める。	① 学校運営における職員相互の共通認識を図れたか。ICT活用の業務効率化等の環境整備を進められたか。 ② コロナ禍前後による学校運営業務の改善ができたか。 職員のリスクマネジメント意識を促すことができたか。	① 若手職員とのコミュニケーションを取りやすくし、ICT活用による業務効率化のために環境整備に努めた。クロームブック・電子黒板活用の管理整備を行い、マークシートリーダー等の整備に努めた。 ② 研修・掲示物による可視化・Teams活用により、学校運営上の課題の共通認識、リスクマネジメント意識の維持・向上の推進を図った。	① 次年度の職員室改善計画に際して、さらにコミュニケーションの取りやすい環境作りやICT活用しやすいクロームブックやマークシートリーダー等の管理体制整備を行う。 ② 学校運営上の課題の職員全体の共通認識、リスクマネジメント意識を維持、さらに向上できるように学校管理体制に努める。	・働き方改革を意識しながら、ICTの活用を推進することで業務の効率化を図り、生徒と向き合う時間を創出することが重要である。 ・相談しやすく風通しの良い職場環境を構築し、様々なハラスメントの防止に努めてほしい。 ・行事等の際、ハプニングに落ち着いて対応しており、リスクマネジメントが徹底されていると感じた。	・日々の注意喚起や研修会等を通じ、事故防止の共通認識のより一層の徹底が必要である。ハラスメントへの認識も向上させた。 ・職員間のコミュニケーションの活性化を充実させ、不祥事防止の意識の醸成を図れた。職員会議のペーパーレス化を実現し、働き方改革を推進した。	・次年度実施されるオフィス改善事業の活用を、業務の効率化につなげる。 ・適時的確な研修会を通じて同僚性の向上を図り、不祥事故防止の徹底を図る。 ・働き方改革の推進に努め、職員がやりがいを感じることができる職場環境を構築する。

